

広島大学工学部跡地の周辺道路整備について

広島市 中区役所 建設部土木課 正会員 小川康彦

神笠寛治

○岩佐尚志

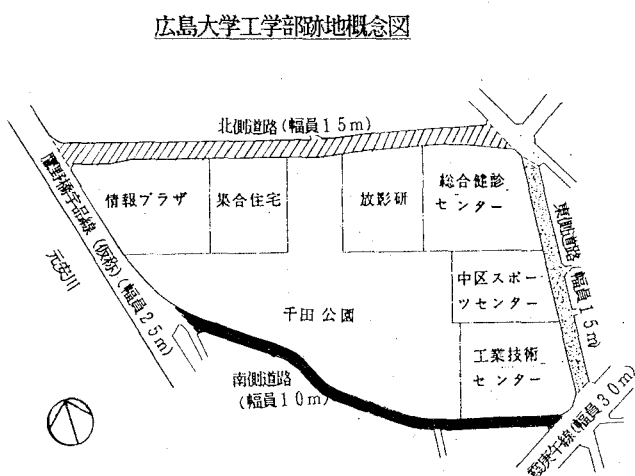
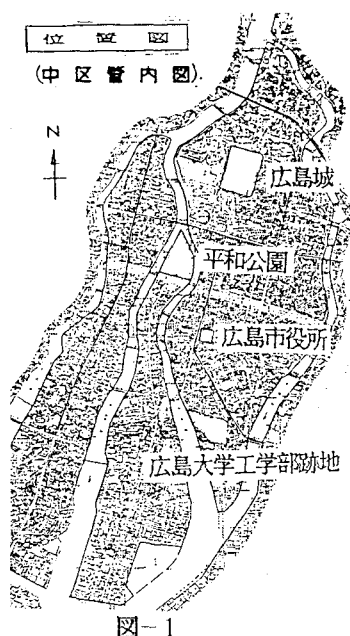
1. まえがき

広島大学の東広島市への移転に伴う工学部跡地の整備は、昭和61年度より工事着手し、昭和64年度末完成を目途に進められているが、この中で、周辺道路整備について、計画から施工への経過及び事業の留意点について特色を述べたい。

2. 広島大学工学部跡地整備の概要

昭和59年12月、広島大学跡地利用研究協議会において、工学部跡地利用計画の合意が得られ、昭和60年度には広島大学工学部跡地景観整備計画により、施設建物群・公園・歩道の素材、デザイン、色彩の基本的方向が策定されている。

この中で、周辺道路はこれらの周辺を囲むかたちで、北側道路（現況幅員2～6m）、南側道路（現況幅員4～6m）の拡幅による交通の機能増と美装街路燈等によるアクセントを創出させている。



3. 周辺道路整備の計画概要

- ・北側道路 — 延長 450m 幅員 15.0m = 3.0m(歩道) + 9.0m(車道) + 3.0m(歩道)
- ・南側道路 — " 380m " 10.0m = 3.5m(歩道) + 6.5m(車道)
- ・東側道路 — " 220m " 15.0m = 3.0m(歩道) + 9.0m(車道) + 3.0m(歩道)
- ・西側道路 — 都市計画道路鷹野橋字品線（仮称）として整備予定

4. 周辺道路整備の留意点

- (1) 敷地側施設を道路境界から2m、セットバックすることにより、敷地側歩道としての空間を作り、道路側歩道と敷地側歩道を並列させ、歩行者空間にゆとりを持たせ、また、それぞれ＜動＞と＜静＞の人の動きに対応した二様の性格を持たせた歩道とする。
- (2) 歩道舗装の材質としてはレンガを使用し、施設群の敷地の素材に合わせた色調（フローレンスセリーズとカトレスアマルーン）のレンガブロックとする。
- (3) 照明、信号柱については特性デザインとして格調を高める。素材は美観・耐久性を考慮してコールテン鋼（耐候性鋼板）の美装柱とする。
- (4) 街路樹は、近接した路線でも植樹しており、地元になじみの深いタイワンフウとする。紅葉時には赤っぽい落葉樹で、常緑樹の多い千田公園内との季節による色バランスを考えて配置した。
- (5) 周辺道路の歩道はジョギングコース等の散策道となるように、歩道上の要所にデザイン化した距離標を設置する。

外周道路標準断面図

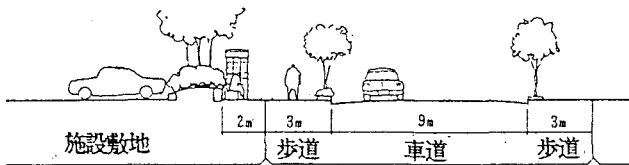
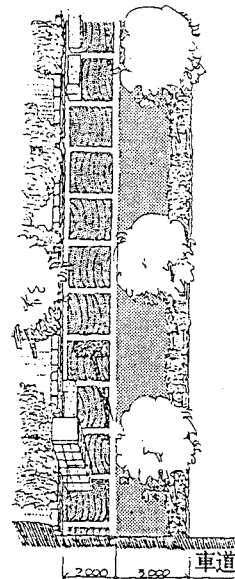


図-3



外周道路 平面図

図-4

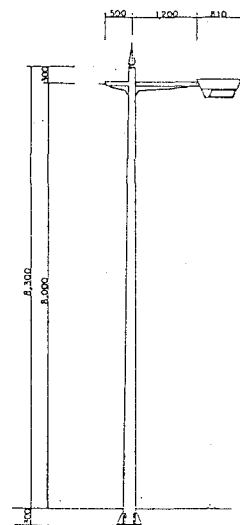
5. 地元との対応

道路事業、公園事業、施設建築等の各種事業が並列して行われることになるため、行政と地元で連絡協議会を設置した。各施工業者間にも情報交換連絡会を作った。これにより、工程の調整・安全対策・地元への連絡網を考えた。各種案内は地元の事務局を通して回覧などで各世帯へ伝えた。この結果、情報提供の徹底を図ったことにより、大きなトラブルもなく進行している。

6. あとがき

事業の過程で、広大工学部移転による生活環境の変化等、複雑な感情も伺われたが、昭和64年度の完成時には、各施設群と共に特色のある道路ができて上がる。

今まで広大工学部以南は狭い道路であったが、同時進行している霞庚午線や鷹野橋宇品線（仮称）の整備により街区が完成し、千田町界隈は大きく変貌し、都心である中区の特色ある街の一つとして生まれ変わることと思う。



街路灯姿図

図-5